

風しん及び麻しん・風しん混合ワクチンの予防接種を受ける人へ

1 風しんの症状について

風しんウイルスの飛沫感染によって感染し、約 14～21 日の潜伏期間があります。発しん、発熱、リンパ節が腫れる、せき、鼻汁、目が赤くなるなどの症状がみられます。3日程度で治ることが多いので「三日ばしか」と呼ばれます。大人になってから、かかると重症化する傾向があります。

2 風しんの合併症について

一般的に予後は良好といわれていますが、稀に関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。妊婦が妊娠早期に風しんにかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により、心臓病、白内障、聴力障害などの障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性が高くなります。

3 ワクチンの効果について

ワクチンの接種を受けたひとの95%以上が免疫を獲得できますが、1回の予防接種では免疫がつかない人や、抗体価が下がってくる人もいるため、現在は2回の接種が勧められています。

4 ワクチンの副反応について

①風しんワクチンの主な副反応 主な副反応は、発しん、じんましん、紅斑、かゆみ、発熱、リンパ節の腫れ、関節痛などです。稀に生じる重い副反応としては、ショック、アナフィラキシー様症状、急性血小板減少性紫斑病（100万人接種当たり1人程度）が報告されています。

②麻しん風しん混合（MR）ワクチンの主な副反応

主な副反応は、発熱、発しんです。これらの症状は、接種後5～14日の間に多くみられます。接種直後から翌日に発熱、発しん、かゆみなどがみられることがありますが、これらの症状は通常1～3日でおさまります。ときに、接種部位の発赤、腫れ、しこり、リンパ節の腫れ等がみられることがありますが、いずれも一過性で通常数日中に消失します。

稀に生じる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状、急性血小板減少性紫斑病、脳炎及びけいれん等が報告されています。

5 接種ができない人

- ①明らかに発熱（通常37.5℃以上をいいます）がある場合
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- ③受けるべき予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある場合
- ④明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する場合及び免疫抑制をきたす治療を受けている場合
- ⑤現在、妊娠している場合、妊娠の可能性のある場合
- ⑥その他、医師が不適当な状態と判断した場合

6 予防接種を受けたあとの注意事項

接種当日は接種部位を清潔に保ち、激しい運動や大量の飲酒はさけてください。入浴は差支えありませんが、注射部位はこすらないようにしてください。接種後2～3週間は副反応の出現に注意し、高熱、けいれん、その他気になる症状が出た場合は、医師の診察をうけてください。

女性は、接種後2か月間は妊娠を避ける必要があります。

7 予防接種による健康被害救済制度について

任意接種による副反応により、医療機関での治療が必要となったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく救済を受けることができます。健康被害の程度に応じて、医療費および医療手当、障害年金、遺族年金、遺族一時金、葬祭料の区分があります。

申請された健康被害について、医薬品の副作用によるものかどうか、医薬品が適正に使用されたかどうかなどの医学的薬学的判断について国の審議会で判断され、救済の対象となった場合に、保障を受けることができます。

* 給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師へご相談ください。